

副論文 2

家族介護者の作業適応質問紙の開発 -内容的妥当性の検討-

永井貴士¹⁾，石井良和²⁾，古桧山建吾³⁾，浅野莉沙¹⁾，山田孝⁴⁾

1) 平成医療短期大学リハビリテーション学科作業療法専攻

2) 首都大学東京大学院人間健康科学研究科

3) 関中央病院

4) 首都大学東京名誉教授

2019年11月21日受付，2020年3月24日受理

発行年月日 2020年6月30日

作業行動研究・第24巻第1号，pp.20-28.

要旨

介護虐待などの社会問題は年々深刻化している。家族介護者が健康に生活するために、地域包括ケアシステムが提唱されている。その一環で家族支援に作業療法士が専門的視点で関わることが重要になると筆者は考えている。そこで要介護者を介護する家族の作業適応状態を評価する尺度開発を目的に、内容的妥当性を検証した。仮尺度を作成し、デルファイ法を用いて妥当性の確保を図った。本研究では、専門家（パネリスト）の合意が基準を超えるまで繰り返される方法を採用した。基準は、内容妥当性比 0.75 以上とした。仮尺度は 64 設問で構成された。3 回施行した結果、1 回目では 50 設問、2 回目では 41 設問に削除・修正され、3 回目で項目のすべてが基準を満たしたため終了した。本尺度の内容的妥当性が担保された。

Abstract

Social problems, such as nursing care abuse, are increasing year after year. Community-based integrated care systems have been proposed for family caregivers to live healthy. As part of this, it is important for occupational therapists to be involved in family support from a professional perspective. The purpose of the study is to develop a scale to evaluate the Occupational adaptation for family caregivers who care for the care recipient. The content validity was verified. A provisional scale was created and the validity was ensured using the Delphi method. In this study, the panelists agreed to repeat until the standards were exceeded. The standard was a content validity ratio of 0.75 or higher. The provisional scale consisted of 64 questions. As a result, it was performed 3 times. The 1st session was deleted and revised to 50 questions, and the 2nd session was deleted to 41 questions. The 3rd session ended with all items meet the criteria. It was judged that the content validity of this scale was guaranteed.

はじめに

厚生労働省は、平成 30 年 3 月に、平成 28 年度「高齢者虐待の防止、高齢者の養護者に対する支援等に関する法律」に基づく対応状況等に関する調査結果を公表した¹⁾。それによると高齢者の世話をしている家族、親族、同居人等の養護者による虐待判断件数は 16,384 件あり、前年度より 408 件増加 (2.6%) したが、年度毎の推移では過去 10 年ほど横ばいが続いているという。虐待の発生要因は「養護者(本論文の家族介護者と同義語)である虐待者の介護疲れ・介護ストレス」が 1,241 件 (27.4%) で最も多く、次いで「養護者の障害・疾病」が 964 件 (21.3%) と、上位 2 つで半数近くを占めている。養護者自身の心身の疲弊が引き起こす介護虐待は大きな社会問題であるが、厚生労働省が各都道府県知事に提示した対応策の通知内容は、介護の知識や技術の啓発やストレスマネジメント研修会の開催などが主であり²⁾、介護虐待への十分な改善策とは言い難く、この問題の要因は複雑であるがゆえに、根本的対策が全く施されていない。現状のまま地域包括ケアシステムの実現に至れば、在宅介護を前提とした政策であるため、家族介護者(要介護者を在宅で同居しながら介護している家族)の介護負担は益々増大することが推測される。

ところで我々は、これまで家族介護者の健康状態の検討を行ってきた³⁾。その中で、身体的・精神的側面にとどまらず、社会的にも不健康な状態にあることを明らかにした。そこで医療従事者は、家族介護者の健康状態にも配慮しながら、要介護者の生活を構築する意識が必要であると考えられた。とりわけ作業療法士(以下;OTR)は疾病の有無にかかわらず、人が個人的に意味のある、仕事・遊び・日常生活活動という作業の 3 領域に健全で円滑に参加すること、すなわち人を作業適応の状態にあるように支援する専門職である⁴⁾。したがって家族介護者がどのような作業適応状態にあるかを把握し、作業適応障害にあると判断される状況では、健康被害からの脱却に向けた支援が必要になると考えられ、それを評価できる尺度が求め

られる。

これまで家族介護者を評価する尺度は、看護・社会福祉領域で積極的に開発されている。特に米国で 1980 年代から介護負担感 (Burden) や介護ストレス (Stress/Strain) を捉える尺度が開発されている。我が国では 1990 年あたりから介護負担感の要因について否定的な側面を評価する尺度が多く作られたが、介護は悪いことばかりではないという肯定的側面を含んだ尺度が報告されるようになってきた⁵⁻⁸⁾。現在、我が国で最も用いられているのは、Zarit 介護負担尺度日本語版 (以下、J-ZBI) である。作業療法 (以下; OT) の領域では、南ら⁹⁾は在宅緩和医療に携わる家族介護者が従事する作業に関する質問紙、Ono¹⁰⁾は認知症高齢者の家族に対する共作業支援尺度を作成している。いずれも家族介護者を支援するために重要な視点を提供するものであるが、作業適応状態を包括的に捉えるものではない。上述したように、地域包括ケアシステムは、それが実現した際、在宅介護力に委ねられるため、作業適応状態を考慮した支援は重要な役割を果たす。家族介護者の作業適応状態が評価できれば、OTRをはじめとする医療専門職による健康に向けた支援の一助になる。そこで筆者らは、家族介護者が作業適応状態にあるか否かを明確にするための尺度開発に着手した。

本研究の目的は、「家族介護者の作業適応質問紙」開発への第 1 段階として、尺度の内容的妥当性の検証を行うことである。

方法

1. 仮尺度の作成

これまで先行研究にて、家族介護者が従事する「介護」という作業の構成概念を生成した¹¹⁾。その構成概念をもとに、仮尺度を作成した。

2. 研究デザイン

尺度の開発には、健康関連の患者報告アウトカムの測定を目的とした質問票・尺度の作成の質に関するチェックリストである COSMIN

チェックリスト (COnsensus-based Standards for the selection of health status Measurement INstruments) に準拠して実施した¹²⁾。

本研究では、内容的妥当性を検証するためにコンセンサス・メソッドのひとつである Delphi 法を用いた。内容的妥当性とは、目的とする概念を評価するのに必要な質問項目が尺度に含まれていることをいう¹³⁾。Delphi 法は、専門家（以下；パネリスト）から問題について書面での判断を得る方法であり、パネリストは何回かにわたって個別に質問され、ある程度の合意に達するまで意見の要約を行う手法である。ただし、Delphi 法には普遍的なガイドラインはなく、多様な方法で行われているため、本研究では Delphi 法の手順を明確に示している Zamanzadeh の方法¹⁴⁾を採用して実施した。

3. 対象者の設定基準と募集方法

Delphi 法では Content experts(研究経験者と現場で働く専門家)をパネリストとして設定した。本研究では、①OTRとして介護保険領域の地域医療現場に3年以上携わったことがあること、②医療・福祉・保健領域での修士号以上の学位を所有していること、③これまで尺度開発または質的研究の経験があることの3つ全てを満たしている者をパネリストとした。Sakuraiら¹⁵⁾によると、理学療法士やOTRの専門性に対する臨床経験が3年目から臨床技能が有意に向上していること、また経験年数のみで専門家と判断することはできないため、医療・福祉・保健領域での学術的研鑽を積んでいること、そして Delphi 法を研究手法としたため質的研究や尺度開発の経験があることを条件付けとした。

募集方法は、作業療法関連の研究論文である「作業療法」及び「作業行動研究」の中から、過去5年に、尺度開発または質的研究であり、研究対象が地域医療であった者の中から無作為に抽出し、筆頭筆者が直接メールで問い合わせた。本研究の目的と方法を伝え、同意を得ることができた者を対象者とした。

4. Delphi 法の方法

今回実施する調査の流れは、本尺度が内容的妥当性を検証するこ

とにあるため、全ての設問で内容妥当性比（以下 Content Validity Ratio; CVR）が 0.75 以上を得ることができるまで繰り返した。CVR とは、Lawshe¹⁶⁾によって開発された方法で、パネリストに全質問項目のリストを渡し、各設問が適切か不適切か 6 段階で評点してもらい、以下の式で計算する。計算式は $CVR = (N_e - N / 2) \div N / 2$ である。N_e はその設問を適切と評価した者の数で、N は全評価者数を表す。-1 から 1 の範囲の値をとり、0 であることは半数の評価者がその設問を適切であると評価したことを意味する。Lawshe は CVR の値を評価者が 8 人の場合は 0.75 を基準とし、値がそれに満たない場合は、その設問は採用しないと提唱している。そのため、全ての設問が 0.75 を超えるまで繰り返し行うこととした。

まず、先行研究にあたる家族介護者が従事する「介護」する作業の構成概念から仮尺度を作成した。同時に、パネリストのメーリングリストを作成して調査用紙を送信した。仮尺度が家族支援を行うために、構成概念を適切に含んだ設問になっているかを「とても同意できる・同意できる・やや同意できる・やや同意できない・同意できない・とても同意できない」の 6 段階での評定と自由記載欄を設け意見を聴取した。6 段階のうち、上位 3 つ（とても同意できる・同意できる・やや同意できる）を適切と評価したと判断した。全ての設問で CVR が 0.75 を超えた段階で内容的妥当性が担保されたと判断し本研究を終了した。

5. 倫理的配慮

本研究は、平成 30 年度平成医療短期大学倫理審査委員会の承認（承認番号第 H30-12 号）を得て実施した。

結果と考察

本研究の特性上、Delphi 法の各段階での結果の表記と合わせて考察を論じる構成として以下に述べる。本研究の調査は第 1 回目が 2018 年 7 月 28 日から 8 月 8 日の間に、第 2 回目は 2018 年 9 月 19 日から 9 月 30 日の間に、第 3 回目は 2018 年 10 月 24 日から 11 月

04日の間に実施された(図1)。

仮尺度は、筆頭筆者が共同筆者と共同で家族介護者が従事する「介護」する作業の構成概念を元に64の設問を作成した。

パネリストは8名(男性6名,女性2名)で,平均年齢は36.0±3.63歳,臨床経験は8年から19年(平均12.6±4.03年),在宅医療サービス経験年数は3年から15年(平均6.4±4.10年)であった。全ての者が保健・医療・福祉領域での修士号以上の学位を所有しており,質的研究の経験者が6名,尺度開発と質的研究の経験者が2名であった。その他の関連資格として,介護支援専門員を5人が,福祉住環境コーディネーター2級を2人が所有していた(表1)。

1. 1回目の Delphi 法

64設問のうち,修正なしが18設問,文言の要修正が25設問,同じ内容を繰り返し聴いていると判断され合併した設問が15設問,家族介護者の健康に関連しないと判断され削除した設問が6設問で,合計50設問になった。修正なしの設問は全てにおいてCVRが最大値の1であった。CVRが0.25以下の設問はほとんどが削除されたが,代替案が示された1つの設問は文言の修正を行い,再度意見を求めることとした。CVRが0.5であった1つの設問は,家族介護者の健康に有用な質問に当たらないとする意見が複数見られたため削除した(表2)。

仮尺度の文言が対象者に十分な理解が可能になるよう修正した。また,問う内容が同質の設問を組み合わせた結果,15設問が7設問になった。1回目終了した段階で64設問から50設問になった。

「2. 介護は仕事だと思っている」「5. 介護に悩まないようにしたり,自分を責めないようにしている」「6. 介護をずっとしていてもいい」「23. 自分らしい人生を生きている」「52. 一緒に介護している人は元気で安心している」「56. 社会の介護への理解を感じている」の設問が削除された。パネリストから「上記内容について問うことの意味がわからない」設問が家族介護者の健康に関連すると思えな

い」と言った指摘があり，家族介護者の健康に影響を与えないと判断された設問が初回の検討で削除されたと考えられる．

2. 2 回目の Delphi 法

2 回目の特徴は，CVR が 1 を得ていても，細かな文言の修正により対象者に誤解なく伝わるための言い回しにした点と，修正なしが最も多くなったことである．2 設問は，重複している意味合いであり，さらに十分な理解を得ることが難しいであろうという判断から削除した．いずれも CVR は 0.5 以下であった．その結果，50 設問のうち，修正なしが 19 設問，文言の要修正が 16 設問，削除が 2 設問，同質の設問と判断され合併した設問が 13 設問で，合計 41 設問になった(表 3)．

1 回目と比べて，修正なしの設問が増え，文言の修正も理解を円滑にするための表現方法になった．また，「16. 介護をしても自分の人生を歩めている」と「32. 介護にとらわれず，自分らしい生活をおくれている」や，「20. 自分にとって大事な活動（趣味など）ができている」と「30. 趣味活動を定期的に行なっている」などの合併により，全体的に同質を問う設問が減ったと考えられる．

3. 3 回目の Delphi 法

41 設問では，全ての項目に修正はなく，CVR が 0.75 を超えた．CVR が「1」が 34 設問，「0.75」が 7 設問であった．最終的に 41 設問が残る形となり，本研究での Delphi 法は終了となった(表 4)．

仮尺度から 3 度にわたりパネリストによる設問の洗練を図り，対象者に適切な理解を得ることができると判断される設問が作成されたと考えられる．本研究は Zamanzadeh の方法を採用しているが，先行研究¹⁴⁾でも 3 回の施行で内容的妥当性が確保されており，適正な範囲内であると考えられる．

4. 本尺度が作業療法へ与える貢献

医療従事者（特に OTR）が対象者を捉える際、経験則の暗黙知で解釈すると、重大な問題を取りこぼす危険性がある。しかし、本尺度を用いることで対象者を作業的視点で捉えることを可能にし、重要な問題に気付きやすくなる。

介護の様々な問題は、家族介護者の心身の疲弊や疾病などにより介護負担が限界を超えて起こるが、問題の複雑さから、十分な対策が施されていない。本尺度は、家族介護者の作業適応状態を捉えるため、作業適応に向けて必要な支援を可能にし、家族介護者の健康に寄与できるものであると思われる。そのため、本研究で行なった内容的妥当性が極めて重要になる。内容的妥当性が確保されたことにより、家族介護者の作業適応を評価するために必要な問いが得られたことを意味すると考えられる。以上のことから、本尺度は OTR に家族介護者の作業適応への支援を行う視点を提供すると思われる。

5. 本尺度の今後の展開

本研究では、「家族介護者の作業適応質問紙」の開発として内容的妥当性の検証を行い、41 設問による尺度が作成された。今後は基準関連妥当性や構成概念妥当性といった他の妥当性の検証や、内部一貫性といった信頼性の検証を行い、本尺度が根拠を持ち得たものとなるよう検証を行っていききたい。

研究の限界

本研究では、内容的妥当性の検証を行ったが、方法論として Delphi 法を採用した。Delphi 法はコンセンサス・メソッドであるが、一方、統一したガイドラインは存在しないなどの問題点もある。そのため、今回はパネリストを一定の基準を超えた者とすることで妥当性を確保した。本研究では COSMIN チェックリストの内容的妥当性のみの確保であるため、今後は他の信頼性と妥当性を検証していく必要がある。

謝辞

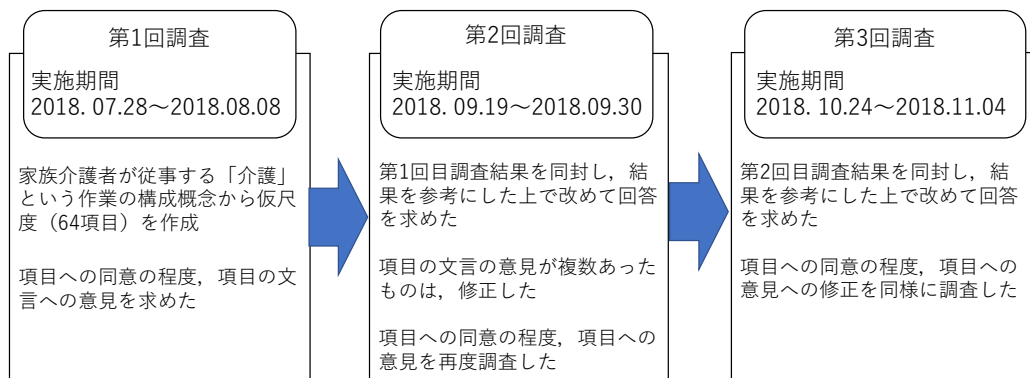
本研究を行うにあたり、パネリストとして研究協力を頂いた皆様に心より感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 厚生労働省：報道発表資料. <https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-12304250-Roukenkyoku-Koureishashienka/0000197120.pdf> (参照 2018-11-28)
- 2) 厚生労働省：介護虐待防止. https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000-Roukenkyoku/0000156240_4.pdf (参照 2018-12-04)
- 3) 永井貴士，石井良和，工藤咲子，長谷川岳，山田孝：家族介護者の健康状態の検討～人間作業モデルの意志に焦点を当てて～. 作業行動研究 21 (3)：78-84, 2017.
- 4) Kielhofner G (小林隆司・訳)：行為の諸次元. Kielhofner G・編著 (山田 孝・監訳), 人間作業モデル, 第4版, 協同医書出版社, 東京, 2012, p.112-121.
- 5) 菅沼真由美，佐藤みつ子：認知症高齢者の家族介護者の介護評価と対処方法. 日本看護研究学会雑誌 34 (5)：41-49, 2011.
- 6) 鷲尾昌一，豊島泰子，山崎律子，宇佐いづみ，荒井由美子：家族介護者の介護負担に関連する要因－要介護高齢者の介護者の介護負担を中心に－. 臨牀と研究 89 (12)：75-79, 2012.
- 7) 広瀬美千代，岡田進一，白澤政和：家族介護者の介護に対する認知的評価と要介護高齢者の ADL との関係：介護に対する肯定・否定両側面からの検討. 生活科学研究誌 3：227-236, 2004.
- 8) 広瀬美千代：アンビバレンスを測定する研究の枠組み，家族介護者のアンビバレントな世界，ミネルヴァ書房，京都，2010, pp.38-51.
- 9) 南征吾，菅沼一平，佐野伸之，小野健一，小林隆司：在宅緩和医療に携わる家族介護者が従事する作業に関する質問紙の開発，試

作版質問紙の表面的内容妥当性の検討. 作業行動研究 21 : 40, 2017.

- 10) Ono, K., Kanayama, Y., Ysuchiya, K., Iwata, M., Yabuwaki, K.: Development and validation of the Measure of Supporting Co-occupation for family caregivers. *British Journal of Occupational Therapy* ,81(10): 571-581, 2018.
- 11) 永井貴士, 石井良和, 市田博子, 小森愛子, 山田孝: 家族介護者が従事する「介護」という作業の構成概念の生成. *作業療法* 39(1) : 26-37, 2020.
- 12) Mokkink LB, Terwee CB, Patrick DL, Alonso J, Stratford PW, et al: The COSMIN checklist for assessing the methodological quality of studies on measurement properties of health status measurement instruments: an international Delphi study. *Qual Life Res*, 19(4):539-549, 2010.
- 13) Messick, S : Test validity and the ethics of assessment. *American Psychologist*, 35: 1012-1027, 1980.
- 14) Vahid Zamanzadeh, Akram Ghahramanian, Maryam Rassouli, et, al : Design and Implementation Content Validity Study: Development of an instrument for measuring Patient-Centered Communication. *Journal of Caring Sciences*, 4 (2):165-178, 2015.
- 15) Sakurai, H., Kanada, Y., Sugiura, Y., Koyama, S., Tanabe, S.: Contents of supervision needed by physical and occupational therapists for ability development: focusing on their clinical experience. *The Journal of Physical Therapy science*, 28: 134-141, 2016.
- 16) C. H. Lawshe: A quantitative approach to content validity. *Personnel Psychology*, 28: 563-575, 1975.



本研究の流れは全体を通して3回に渡り実施した。その時間軸の流れに沿って、実施状況を示す。

図1 Delphi法の流れ

表2（高齢者版）家族介護者の健康質問紙 1回目Delphi法の結果一覧

設問	CVR	同意率(%)	1回目から2回目への修正内容
1 介護に自信や達成感といった肯定的な感情を感じられている。	0.5	75.0	3. と合併する。
2 介護は仕事だと思っている。	0.5	75.0	家族支援に有用な質問にならないと思われるため、削除する。
3 介護を通して充実感を得ることができている。	1	100.0	介護を通して肯定的な充実感を得ることができている。に修正し1と合併する。
4 より良い介護への追求をしている。	0.75	87.5	より良い介護への努力をしている。に修正する。
5 介護に悩まないようにしたり、自分を責めないようにしている。	0.25	62.5	削除する。
6 介護をずっとしていてもいい。	0.25	62.5	削除する。
7 思いやりを持った介護をしている。	0.75	87.5	思いやりを持って介護をしている。に修正する。
8 要介護者への感謝の気持ちをもって介護している。	0.75	87.5	文書は修正せず、12と合併する。
9 要介護者を中心とした生活を送っている。	1	100.0	修正無し。
10 要介護者一家族介護者の関係が介護する前と比べて変わらない。	0.75	87.5	修正無し。
11 介護は家族との大切な時間である。	0.5	75.0	介護する生活は家族との大切な時間である。に修正する。
12 介護はうまでの感を返す行為である。	0.5	75.0	8に合併する。
13 要介護者を怒ったことはない。	0.75	87.5	14と合併する。
14 要介護者に苛々しない。	1	100.0	要介護者に怒ったり、イライラしない。に修正し13と合併する。
15 要介護者に不満はない。	1	100.0	修正無し。
16 要介護者の介護量は増えないと安心してしている。	1	100.0	将来的に要介護者の介護量が増える不安はない。に修正する。
17 要介護者の人格は昔と変わらない。	0.75	87.5	要介護者の人格が随分変わったが、戸惑いはない。に修正する。
18 要介護者からの感謝の気持ちを感じる。	1	100.0	修正無し。
19 介護へのねざらいがなくても平気である。	1	100.0	修正無し。
20 これから先の自分の人生に不安はない。	0.75	87.5	これから先の自分の将来の生活に不安はない。に修正する。
21 自分の人生が孤独になることはない。	0.75	87.5	修正無し。
22 介護をしても自分の人生を歩めている。	0.75	87.5	修正無し。
23 自分らしい人生を歩いている。	-0.25	37.5	削除する。
24 介護への考え方が以前より受動的になった。	0.5	75.0	25と合併する。
25 介護することは当たり前になった。	0.5	75.0	介護することが当たり前と思えるようになった。に修正し24・49と合併する。
26 介護とそれ以外の自分の生活（仕事や遊び、食事など）にバランスが取れている。	1	100.0	修正無し。
27 無理なく介護ができている。	1	100.0	修正無し。
28 自分にとって大事な活動（趣味など）ができている。	1	100.0	修正無し。
29 自分は健康である。	1	100.0	自分は健康（身体的・精神的・経済的）である。に修正する。
30 自分は不自由なく生活を送っている。	0.5	75.0	自分は時間的・環境的に不自由なく生活を送っている。に修正する。
31 身体は痛みも疲れもない。	0.5	75.0	介護による身体的疲労はない。に修正する。
32 病気がしていない。	0.5	75.0	介護をしている間、私は病気をしていない。に修正する。
33 精神的に落ちている。	1	100.0	修正無し。
34 元気があり活力にあふれている。	1	100.0	修正無し。
35 経済的に余裕がある。	1	100.0	修正無し。
36 満足いく睡眠がとれている。	0.75	87.5	修正無し。
37 睡眠で疲れはとれている。	1	100.0	修正無し。
38 趣味がある。	0.5	75.0	39と合併する。
39 趣味への意欲が高い。	0.75	87.5	趣味活動を定期的に行っている。に修正し、38と合併する。
40 気分転換して、心と体のバランスが取れている。	1	100.0	気分転換ができおり、心と体のバランスが取れている。に修正する。
41 介護にとらわれていない。	0.75	87.5	介護にとらわれず、自分らしい生活を送れている。に修正する。
42 趣味や楽しいと感じる活動への意欲が維持できている。	1	100.0	楽しいと感じる活動への意欲が維持できている。に修正する。
43 介護を一人で抱え込まないようにしている。	1	100.0	修正無し。
44 休まる時間や場所がある。	0.75	87.5	休まる環境がある。に修正する。
45 社会的役割（仕事など）を充実して行っている。	0.5	75.0	社会的役割（有給・無給関係なく）を充実して行っている。に修正する。
46 社会の一員として存在を自覚している。	0.5	75.0	社会の一員として存在価値を自覚している。に修正する。
47 近隣住民と積極的に交流している。	0.75	87.5	近隣住民と交流している。に修正する。
48 家から出ることが多い。	1	100.0	修正無し。
49 家で介護することは当然のことである。	0.5	75.0	25と合併する。
50 介護施設に預けることも選択肢の一つに入れている。	1	100.0	要介護者を介護施設に預けることも選択肢の一つに入れている。に修正する。
51 一緒に介護している人は大切な存在である。	0.75	87.5	一緒に介護している人（介護を分担している人や介護・福祉専門職）は大切な存在である。に修正する。
52 一緒に介護している人は元気で安心してしている。	0.25	62.5	削除する。
53 遠くにいる家族とも心で支え合っている。	0.5	75.0	離れた場所にいる家族とも心で支え合っている。に修正する。
54 似た経験をしていて、話を聞いてくれる人がいる。	0.75	87.5	似た介護経験をしていて、話を聞いてくれる人がいる。に修正する。
55 似た経験者から有益な情報をもらえる。	1	100.0	修正無し。
56 社会の介護への理解を感じている。	0.25	62.5	削除する。
57 介護に無縁の人より貴重な経験をしている。	1	100.0	介護に無縁の人に羨ましさを感じない。に修正する。
58 近所の人や地域社会の人からの配慮がある。	1	100.0	地域社会の人からの配慮がある。に修正する。
59 社会資源（福祉サービスなど）に期待している。	1	100.0	介護・福祉サービスに期待している。に修正し、64と合併する。
60 社会資源（福祉サービスなど）の利用をしている。	0.25	62.5	介護・福祉サービスを利用して助かっている。に修正する。
61 社会資源（福祉サービスなど）の利用するタイミングは良かった。	0.5	75.0	62と合併する。
62 社会資源（福祉サービスなど）は充実している。	0.75	87.5	介護・福祉サービスの利用内容は納得している。に修正し61と合併する。
63 困りごとを専門の窓口相談することができている。	0.75	87.5	ケアマネジャーや利用施設の相談員と良好な関係である。に修正する。
64 医療専門職者に期待している。	0.5	75.0	59と合併する。

表3 (高齢者版) 家族介護者の健康質問紙 2回目Delphi法結果一覧

	設問	CVR	同意率(%)	1回目から2回目への修正内容
1	介護を通して肯定的な充実感を得ることができている。	1.00	100.0	介護を通して充実感を得ることができている。に修正する。
2	より良い介護への努力をしている。	1.00	100.0	修正無し。
3	思いやりを持って介護をしている。	0.75	87.5	思いやりを持った介護ができている。に修正する。
4	要介護者への感謝の気持ちをもって介護している。	0.75	87.5	修正無し。
5	要介護者を中心とした生活を送っている。	0.75	87.5	要介護者を中心とした生活にはなっていない。に修正する。
6	要介護者-家族介護者の関係が介護する前と比べて変わらない。	1.00	100.0	修正無し。
7	介護する生活は家族との大切な時間である。	0.75	87.5	介護することは家族との大切な時間である。に修正する。
8	要介護者に怒ったり、イライラしない。	0.50	75.0	要介護者に不満(怒ったり、イライラすること)はない。に修正する。
9	要介護者に不満はない。	0.00	50.0	削除する。
10	将来的に要介護者の介護量が増える不安感はない。	0.75	87.5	修正無し。
11	要介護者の人柄が随分変わったが、戸惑いはない。	0.75	87.5	要介護者の人柄が変わったが、戸惑いはない。に修正する。
12	要介護者からの感謝の気持ちを感じる。	1.00	100.0	修正無し。
13	介護へのねぎらいがなくても平気である。	0.75	87.5	要介護者からの介護へのねぎらいがなくても平気である。に修正する。
14	これから先の自分の将来の生活に不安はない。	0.75	87.5	修正無し。
15	自分の人生が孤独になることはない。	1.00	100.0	介護によって自分の人生が孤独になることはない。に修正する。
16	介護をしていても自分の人生を歩めている。	1.00	100.0	修正せず32と合併する。
17	介護することが当たり前と思えるようになった。	1.00	100.0	修正無し。
18	介護とそれ以外の自分の生活(仕事や遊び、食事など)にバランスが取れている。	1.00	100.0	介護とそれ以外の自分の生活(仕事や遊び、食事など)でバランスが取れている。に修正し、22と合併する。
19	無理なく介護ができている。	0.75	87.5	修正せず、23と合併する。
20	自分にとって大事な活動(趣味など)ができている。	0.75	87.5	修正せず、30と合併する。
21	自分は健康(身体的・精神的・経済的)である。	1.00	100.0	修正せず、25と27を合併する。
22	自分は時間的・環境的に不自由なく生活を送っている。	0.50	75.0	18と合併する。
23	介護による身体的疲労はない。	0.50	75.0	19と合併する。
24	介護をしている間、私は病気をしていない。	0.75	87.5	介護をし始めてから、自分は病気をしていない。に修正する。
25	精神的に落ち着いている。	0.50	75.0	21と合併する。
26	元気があり活力にあふれている。	0.75	87.5	今現在、元気があり活力にあふれている。に修正する。
27	経済的に余裕がある。	0.25	62.5	21番と合併する。
28	満足のいく睡眠がとれている。	0.75	87.5	修正せず29と合併する。
29	睡眠で疲れはとれている。	0.50	75.0	28と合併する。
30	趣味活動を定期的に行っている。	0.50	75.0	20と合併する。
31	気分転換ができしており、心と体のバランスが取れている。	0.75	87.5	気分転換ができしており、心と体の状態は良好である。に修正する。
32	介護にとらわれず、自分らしい生活を送れている。	0.75	87.5	16と合併する。
33	楽しいと感じる活動への意欲が維持できている。	1.00	100.0	修正無し。
34	介護を一人で抱え込まないようにしている。	1.00	100.0	修正無し。
35	休まる環境がある。	1.00	100.0	心や体が休まる環境がある。に修正する。
36	社会的役割(有給・無給関係なく)を充実して行えている。	1.00	100.0	修正無し。
37	社会の一員として存在価値を自覚している。	1.00	100.0	修正無し。
38	近隣住民と交流している。	1.00	100.0	修正無し。
39	家から出ることが多い。	1.00	100.0	修正無し。
40	要介護者を介護施設に預けることも選択肢の一つに入れている。	0.75	87.5	要介護者が施設サービスを利用することも選択肢の一つに入れている。に修正する。
41	一緒に介護している人(介護を分担している人や介護・福祉専門職)は大切な存在である。	0.50	75.0	削除する。
42	離れた場所にいる家族とも心で支え合っている。	0.75	87.5	修正無し。
43	似た介護経験をしていて、話を聞いてくれる人がいる。	1.00	100.0	修正無し。
44	似た経験者から有益な情報をもらえる。	0.50	75.0	似た介護の経験者から有益な情報をもらえる。に修正する。
45	介護に無縁の人に羨ましさを感じない。	0.75	87.5	修正無し。
46	地域社会の人からの配慮がある。	0.50	75.0	地域住民の人からの配慮がある。に修正する。
47	介護・福祉サービスに期待している。	1.00	100.0	修正無し。
48	介護・福祉サービスを利用して助かっている。	0.75	87.5	要介護者が介護・福祉サービスを利用することで身体的・精神的に助かっている。に修正する。
49	介護・福祉サービスの利用内容は納得している。	1.00	100.0	修正無し。
50	ケアマネジャーや利用施設の相談員と良好な関係である。	1.00	100.0	修正無し。

表4 家族介護者の作業適応質問紙 3回目Delphi法結果一覧

	設問	CVR	同意率(%)
1	介護を通して充実感を得ることができている	1.00	100.0
2	より良い介護への努力をしている。	1.00	100.0
3	思いやりを持った介護ができている	0.75	90.0
4	要介護者への感謝の気持ちをもって介護している。	0.75	90.0
5	要介護者を中心とした生活にはなっていない	0.75	90.0
6	要介護者一家族介護者の関係が介護する前と比べて変わらない。	1.00	100.0
7	介護することは家族との大切な時間である	1.00	100.0
8	要介護者に不満（怒ったり、イライラすること）はない	1.00	100.0
9	将来的に要介護者の介護量が増える不安感はない。	1.00	100.0
10	要介護者の人柄が変わったが、戸惑いはない	1.00	100.0
11	要介護者からの感謝の気持ちを感じる。	1.00	100.0
12	要介護者からの介護へのねぎらいがなくても平気である	1.00	100.0
13	これから先の自分の将来の生活に不安はない。	1.00	100.0
14	介護によって自分の人生が孤独になることはない	1.00	100.0
15	介護をしていても自分の人生を歩めている。	1.00	100.0
16	介護することが当たり前と思えるようになった。	0.75	90.0
17	介護とそれ以外の自分の生活（仕事や遊び、食事など）でバランスが取れている	1.00	100.0
18	無理なく介護ができている。	1.00	100.0
19	自分にとって大事な活動（趣味など）ができている。	1.00	100.0
20	自分は健康（身体的・精神的・経済的）である。	1.00	100.0
21	介護をし始めてから、自分は病気をしていない	1.00	100.0
22	今現在、元気があり活力にあふれている	0.75	90.0
23	満足のいく睡眠がとれている。	1.00	100.0
24	気分転換ができており、心と体の状態は良好である	0.75	90.0
25	楽しいと感じる活動への意欲が維持できている。	1.00	100.0
26	介護を一人で抱え込まないようにしている。	1.00	100.0
27	心や体が休まる環境がある	1.00	100.0
28	社会的役割（有給・無給関係なく）を充実して行えている。	1.00	100.0
29	社会の一員として存在価値を自覚している。	1.00	100.0
30	近隣住民と交流している。	1.00	100.0
31	家から出ることが多い。	1.00	100.0
32	要介護者が施設サービスを利用することも選択肢の一つに入れている	1.00	100.0
33	離れた場所にいる家族とも心で支え合っている。	0.75	90.0
34	似た介護経験をしていて、話を聞いてくれる人がいる。	1.00	100.0
35	似た介護の経験者から有益な情報をもらえる	1.00	100.0
36	介護に無縁の人に羨ましさを感じない。	1.00	100.0
37	地域住民の人からの配慮がある	1.00	100.0
38	介護・福祉サービスに期待している。	1.00	100.0
39	要介護者が介護・福祉サービスを利用することで身体的・精神的に助かっている	1.00	100.0
40	介護・福祉サービスの利用内容は納得している。	1.00	100.0
41	ケアマネジャーや利用施設の相談員と良好な関係である。	1.00	100.0